

# 令和5年度 4月 訓示

本庁・船泊支所

令和5年4月3日

礼文町長 小野 徹

## 「協心戮力(きょうしんりくりよく)」

「元気な礼文づくり」は、私一人で実現できるものではなく、職員の皆さんと力を合わせながらやっていかなければ実現できないものと考えています。

役場は、一人一人の能力を十分に発揮し、一致団結のもと、個人と組織の一体化をもって、「元気な礼文づくり」に挑戦することが重要と考えていますので、私たちは、心も力も一つに合わせ、<sup>みんな</sup>全員の力を結集して「元気な礼文づくり」に取り組んでいきましょう!!

皆さん、おはようございます。 いよいよ令和 5 年度の始まりであります。 初めに、8 名の新採用の皆さんにお話をしたいと思ひます。 さきほど、新規採用職員を代表して「<sup>つのだみずほ</sup>角田瑞穂さん」から宣誓をしていただきました。

社会人として初めてのスタートとなる方、あるいは、既に社会人となっていましたが高に新たに仕事への価値を見出し礼文町の職員となられた方、いずれにいたしましても私たち礼文町役場の職員となられ、私たちの仲間となられましたことに心からお祝いと歓迎を申し上げるところでございます。 特に、今年は礼文高校の「りとう留学」の第 1 期生お二人も礼文町役場で働くことになりました。 これまでは移住という形でありましたが、これからは、定住することになります。 これまで 3 年間、島の方々から親切にされてきたので、今度は、自分たちが、島の人たちを支えていきたい…ということで町の職員になりました。 本当にうれしいことあります。 8 人の皆さんがともに一日も早く仕事に慣れ、立派な職員になることを願っております。

そして、新型コロナウイルスが猛威を振るってから 4 年目となりましたが、世界中がさまざまな危機的状況に陥り、皆さん

の中にも、マスクの生活など自粛が続いて不便を強いられてこられた方もいらっしゃるかもしれませんね。これまでの3年間では、コロナ禍で仕事を失ったり、経済的な苦境に立たされ学校をやめたりと予想外の運命を背負うこととなった人が大勢いました。しかしながら、今日から皆さんは、礼文町の町民皆さんの暮らしを守り、まちをつくり、地域を支える、礼文町の職員になったのでございます。これまでとは立場を変えて社会全体を見渡し、この危機を乗り越えるために、自分なら何ができるか、どうしたら苦しんでいる人を支えていけるか、また、礼文町の若者が未来に明るい希望の持てるまちづくりに向けて力を発揮していただきますようお願いしております。公務員は、安定した収入と地位が保証されています。これはとりもなおさず「住みやすい活力あるまちにしてほしい」という町民皆さんからの思いでありますから、そうした町民皆さんへの期待に応えていかなければならないと思っています。そして、町民の皆さんがおられるから、私たちの仕事があるのであり、町民の皆さんの幸せのために私たちは仕事をしていくわけであります。まず、このことを基本においていただきたいと思います。

そのうえで申し上げますと、私は、役場の仕事ほど町民の皆さんと直に触れ合う中で、なんでも思った通りにできるわけではありませんが、思ったことを自己実現できる、こんな面白いやりがいのある仕事はないと思っています。皆さんには、このようなやりがいのある、一生の誇りある仕事に仕上げていただきたい！心から皆さんの飛躍を期待していますので、どうぞ、頑張ってください！

次は「地域おこし協力隊」の皆さんにお話をいたします。

ようこそ、礼文島においでをいただきました。今年2年目となる方もいらっしゃると思いますが、4名の皆さんは今年初めて地域おこし協力隊として礼文町で勤務をされますので、皆さんを心から歓迎いたします。「地域おこし協力隊」とは、本来、地域協力活動を行いながら、その地域への定住を図るものと理解をしているところでありますが、後程申し上げますけれども、今、礼文町では、職員が不足している状況にありまして、本旨ではありませんが、皆さんの地域活動よりも、役場の仕事を行っていたく場合が多いと感じることがあると思います。このため、な

かなか地域活動が進まないこともあろうかと思えます。

でも、これから3年間の中で、皆さんが礼文島への定住をめざす活動が活発にできますよう、私どもも、しっかりとサポートしてまいりますので、不安なこと、心配なことなど職場の仲間になんでも話しかけてください。そして、安心して「地域おこし協力隊」として活躍をしていただきますよう、期待をし、お願いを申し上げる次第でございます。

では、ここからは全ての職員に申し上げます。今回の異動で、それぞれ昇任昇格された皆さん おめでとう! 心からお祝いを申し上げます。また、新しい部署に異動された皆さんもスムーズな事務の引継ぎを行って、速やかに新たな仕事に慣れていただくようお願い致します。いよいよ今日から令和5年度が始まります。新型コロナウイルス感染症による社会経済環境の変化や人口減少、少子高齢化の進行、頻発する自然災害への防災、減災の取り組み、さらに地方自治体のDXやカーボンニュートラル、SDGsへの対応など、地方自治体は、今、大きな岐路に立たされており、わが町の行政課題も山積しています。

また、先程も少し申し上げましたように、今、役場は職員が足りない厳しい状況にあります。新規採用、また中途退職する職員の補充に努めてきましたが、なかなか採用が進まない状況で、皆さんには大変なご苦勞をおかけしていることを深くお詫び申し上げますところでございます。

でも私は、こんな時だから、職員の皆さんには、スクラムを組んで、「元気な礼文づくり」に邁進していただきたいとお願い申し上げます次第であります。そこで、今日は、皆さんにある言葉を贈りたいと思います。

それは「協心戮力(きょうしんりくりよく)」という言葉であります。「協心」とは心を乱さず、調和をはかることを言います。「戮」とは、合わせる、一つにするという意味があり「戮力」は力を合わせることであります。したがって「協心戮力」とは、心をひとつにして力を合わせ、任務にあたることを表す四文字熟語であります。それも、だれひとり残すことなく全員参加のもと、心をひとつにして力を合わせることを云うのであります。今から150年ほど前、明治維新の際に大きな力となったのが「薩長同盟」であります。この同盟を結ぶために、あの有名な坂本竜

馬が薩摩藩と長州藩の人たちに、新しい日本を創るために心をひとつにして手を結ぼう、と熱い思いを語った時にも使われたとうかがっています。

また、先日の WBC(ワールドベースボールクラシック)で、侍ジャパンが 2009 年大会以来 14 年ぶりに、3 度目の王者奪還を成し遂げました。あの大会でも、30 人の選手、また、スタッフ全員が、一つになって優勝をめざした姿は、私たちに大きな感動を与えてくれました。決してあきらめない姿勢、泥だらけになりながらボールを追いかける姿は世界中の人たちから大きな称賛をいただきました。これが「協心戮力」の気持ちが実を結んだものと思っています。もちろん、行政も、誰か一人の力でできるものではありませんので、「元気な礼文づくり」も、皆さんのお力を一つに合わせていくことが必要であります。

だれひとり抜けることなく、心も力もひとつにして明治維新を成し遂げたように、また、侍ジャパンが世界一になったように、皆さんの力を結集して、物事を成さんとする心で、「元気な礼文づくり」に邁進していただきたい。そういう思いから、皆さんにこの言葉を贈りたい、とあって用意をさせていただきました。

これまで 3 年間、新型コロナウイルス感染症が、ここ礼文島でも猛威をふるいました。350 人を超える感染者が出て、学校や保育所が臨時休校となったり、学校行事ができなかったり、延期になったりと大変な事態となりました。また、船泊診療所や特別養護老人ホーム「礼宝園」もクラスターが発生するなど町民の皆さんにも多くのご迷惑をおかけしました。でも、私は、職員の皆さんが頑張ってくれたおかげで、無事に今日を迎えたと思っており、感謝しているところであります。今年に入って感染症もようやく落ち着きをみせ、この5月8日からは「2類」からインフルエンザと同じ「5類」になるそうであります。この3年間、中止となっていた町の様々なイベントや行事も、今年は、ウイズコロナ、アフターコロナの考えを取り入れ、予防に努めながら、通常通りの開催となりますので、職員の皆さんには、実施についてよろしくお願ひしたいと思ひます。

また、昨年から新たに「DX(デジタルトランスフォーメーション)」の取り組みが始まっております。

デジタル化することによってどこでも誰でも快適な生活がで



きるよう町民の皆さんの生活を豊かなものにするとともに地方の課題を解決していこうとするものであります。

特に、その基本となるマイナンバーカードの交付にあたっては、窓口時間の延長や各地区に出かけて作業を行っていただいたこと、皆さんには、心から、感謝しています。

3月末で77.6%という高い交付率になる見込みというふうにかがっています。

引き続き、今年も「北海道日立システムズ」よりデジタル人材の派遣をいただいで進めることとしております。更なるデジタル化の推進に向けて、よろしく、お願い申し上げるところでございます。

そして、今年からもうひとつ新しい取り組みが加わります。今年には1923年(大正12)に発生した「関東大震災」から100年、1993年(平成5)の奥尻島を襲った「北海道南西沖地震」から30年、また、2011年(平成23)あの「3.11 東日本大震災」から12年が経ちました。近年、わが町わが国のみならず世界各国で台風やサイクロンによる豪雨や風水害が激甚化しています。

太平洋の島国バヌアツでは、今年3月にふたつのサイクロンによって甚大な被害に見舞われました。また、ツバルという島国では、普段から、陸地(島)が海の中に沈んでしまう海面上昇という気候変動による大きな影響を受けているそうであります。

その原因とされるのが、「地球温暖化」であり、産業革命以降、経済活動等を通じた大気中のCO<sub>2</sub>などの温室効果ガスの排出量の急増が主たる原因とされ、この温室効果ガスを減少させる取り組みが世界の潮流となっております。

もともとは、温暖化の原因とされる大量の二酸化炭素を排出している石炭や石油などの化石燃料を燃やす火力発電などから、太陽光発電や風力を利用した自然再生エネルギーへの転換をめざしたものでありましたが、温暖化を食い止めるためには更なる取り組みが必要とされております。

例えば、礼文町が一年間に排出している二酸化炭素の量は、平成30年度の環境省のデータによれば、毎年5万7千トンの二酸化炭素を排出しておりますので、2050年までに、一年間の二酸化炭素の吸収量を排出量と同じ5万7千トンに

して実質ゼロにする、これが「カーボンニュートラル」の考え方でございます。このため、わが町においても、今年の3月議会において、利尻礼文三町共同の「ゼロカーボンシティ宣言」を行ない、礼文町でも「2050年カーボンニュートラルに向けた取組」を推進していくと宣言したところでございます。

このカーボンニュートラルは、例えば電気自動車への転換や緑を増やす取組みなど様々な取組みがあるように、「仕事や投資、そして雇用が生まれる」と云った地域を活性化させる取組みであるとも云われています。

具体的な取組みについては、今後策定するわが町の「地球温暖化対策計画」に盛り込んでいくこととなりますので、職員の皆さんには、そこに向けて、わが町でどんな取組みができるのかを考え、実践して、元気な礼文づくりを進めていただきたいと思っております。特に、「海を舞台にしたブルーカーボン」の取組みは、周りを海に囲まれている礼文島の特性を十分に生かすことで地域の活性化をより一層図っていけるものと期待しております。

それは、一方で「グリーンカーボン」と呼ばれる、森林が二酸化炭素を吸収して光合成で酸素に変えるというお話は皆さんよくご存知のとおりであります。実は、海の中の昆布などの海藻にも二酸化炭素を吸収する働きがあり、陸上の森や林が吸収する二酸化炭素の吸収率は約 12%と云われますが、海での吸収率は約 30%と、陸上よりも吸収する割合が高いと云われています。

例えば、礼文島の周りに昆布などの海藻を増やして、二酸化炭素の吸収量を増やそうとする取り組み、これが「ブルーカーボン」であります。

なぜか？ 漁業者の皆さんが昆布や海藻を増やす活動をすれば、藻場が増えますから、そのことによってCO<sub>2</sub>の吸収量が増え、温暖化を防止することになります。

同時に、海の中に海藻類などの藻場が増えることによって、昆布やウニも増産されますので漁業所得が増えます。

したがって、この藻場の面積が増えれば増えるほど、二酸化炭素を吸収することになり、これが「ブルーカーボン、クレジット」として、二酸化炭素を排出している企業との間に、

新たな取引が生まれて、さらに、漁業者の所得向上につながっていきます。

これが「ブルーカーボン」と呼ばれる「カーボンニュートラルに向けた取組」の一つであり、こうした取組みが、町民皆さんの所得が向上し、「仕事や投資、そして雇用が生まれる」と云った地方の活性化が図られ、地方創生につながっていくという一つの事例であります。

私は、皆さんに、そうしたことを考え、取り組んでいただくために、今年は25年ぶりに職員研修を復活させていただいたところでございます。

職員研修の内容につきましては、早い時期に皆さんと協議をさせていただいて実施したいと考えています。

息の長い取組みになりますが、先進地の視察等を通して「カーボンニュートラル」について積極的に、また、具体的に研究研修に取り組んでいただきたいと思います。

皆さんが携わっているどの仕事にも、必ず、「カーボンニュートラル」につながる取組みがあると思っていますので、よろしく願いいたします。

結びになります。私たちは、先人から受け継がれてきた、この美しい礼文島の自然、文化、産業、歴史伝統など、この素晴らしい礼文島の宝をうまく活用して、挑戦をし続けることによって、誇りある礼文町をより住みやすい良いまちにして、次の世代に引き継いでいきたいと考えています。

それが私たち役場職員の仕事(ミッション)だからでございます。

あらためて、職員の皆さんに「協心戮力(きょうしんりくりよく)」の気持ちで、心も力もひとつにし、誰ひとり残ることなく、全員参加のもと、<sup>みんな</sup>全員の力を結集して、「元気な礼文づくり」に邁進していただくことを心からお願いを申し上げまして令和5年度始まりの訓示といたします。

今年も皆さんと一緒に頑張ります！ よろしくお願いいたします。